

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和4年 5月 3日

事業所名 タクト

| | チェック項目 | はい | いいえ | 工夫している点 | 課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標 |
|---|--|------|--------------------------------|---|--|
| 環境・体制整備 | 1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である | 60% | 40% | 児童の特性や活動によって部屋を使い分けています。またパーテーションを使う等室内を区切って他児童の対応をしています。 | |
| | 2 職員の配置数は適切である | 60% | 40% | 全事業所で相談し、児童数の変更があれば職員の配置も変更しています。 | |
| | 3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている | 0% | 100% | | 現在バリアフリー化が必要な児童はいませんが、必要に応じて受け入れの体制を整えます。 |
| 業務改善 | 4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している | 60% | 40% | 定期的なカンファレンスに加えて、毎日児童来所前に利用児童についてのミーティングを行なっています。 | カンファレンスの間隔を短くして、児童の支援を行っていきます。 |
| | 5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている | 80% | 20% | 意見を集約し、改善点を必要に応じて検討しています。 | |
| | 6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している | 100% | 0% | 年度末にホームページで公表しています。 | |
| | 7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている | 0% | 100% | | 法人全体で行なっていますが、デイの職員まで情報共有ができていないことがあります。デイ全体で情報を把握できるよう情報共有を行います。 |
| | 8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している | 60% | 40% | 職員研修や月一度の外部の研修等に参加しています。 | 外部研修を行なっていますが、職員の業務負担が多く参加することが難しい事が多い為、業務改善を行っていきます。 |
| 適切な支援の提供 | 9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している | 100% | 0% | 年2回のモニタリングを実施しています。新型コロナウイルスの影響で、来所していただくことが難しく電話やZOOMを使ったモニタリングを実施しました。 | |
| | 10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している | 60% | 40% | アセスメントツールとしてヴァインランドを参考にしています。 | 職員の業務量が多くヴァインランド等の活用が難しいこともあるため、業務負担の軽減を図ります。 |
| | 11 活動プログラムの立案をチームで行っている | 80% | 20% | 長期休み前には、職員全体で話し合いクッキングや買い物学習等を取り入れています。 | |
| | 12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している | 20% | 80% | 日々のルーティンを好む利用児童が多いため、活動を固定化して実施していることもあります。1年を通して季節に応じて味覚狩りを行なっています。 | 新型コロナウイルスの影響で体育館が使えない等の理由から活動の幅が狭くなってしまっています。新型コロナウイルスの影響が落ち着いたら全体でのイベント等の開催も検討していきます。 |
| | 13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している | 100% | 0% | 中高生の児童が多く、それぞれの児童に合わせた活動を行なっていますが、特性に合わせてルーティン化している物も多いです。長期休みには児童に合わせて、買い物やクッキング等のプログラムも実施しています。 | |
| | 14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している | 100% | 0% | それぞれの児童の特性や好きな事、発達段階や課題に合わせて個別活動や集団活動を組み合わせています。 | |
| | 15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している | 100% | 0% | 児童来所までに、その日の児童の支援についてミーティングを行なっています。 | 休日や長期休暇の際に、ミーティングの時間が短くなってしまふことが多い。 |
| | 16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している | 20% | 80% | 支援終了後は時間が短いため、その日の情報共有のみを行い、次の日に振り返りや、次回の療育時の課題設定等を行なっています。 | |
| | 17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている | 100% | 0% | 毎日ケース記録を記入し、その日の出来事や児童の様子を記録しています。 | |
| 18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している | 100% | 0% | 年2回のモニタリングを実施しています。 | | |
| 19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている | 60% | 40% | | 医療的ケア児の受け入れは現在実施していません。 | |
| 関係機関や保護者との連携 | 20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している | 80% | 0% | 担当者や児童発達支援管理責任者などが話し合いに参加しています。 | |
| | 21 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている | 100% | 0% | 学校送迎時に様子の確認、支援内容の共有などを行なっています。また、学校からメール配信や保護者の方を通して行事予定表をいただく等の情報共有をしています。 | |
| | 22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている | 60% | 40% | 発作やアレルギーがある児童に関しては、指示書をいただいています。それ以外の医療的ケアが必要な児童はタクトに在籍していません。 | |
| | 23 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている | 20% | 80% | 中高生が対象の事業所のため、就学前の事業所と情報共有を行うことはありません。 | |
| | 24 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している | 20% | 80% | 現在学校を卒業した児童はいないため、障害福祉サービス事業所等との情報共有をする機会はありませんでした。 | 今後必要に応じて、情報を提供する等他機関との連携を取って支援を行なう。 |
| 25 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている | 0% | 100% | 児童発達支援センターと連携をして、研修などに参加しています。 | | |

| | チェック項目 | はい | いいえ | 工夫している点 | 課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標 |
|---------------------------------------|---|------|------|---|--|
| | 26 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある | 0% | 100% | | 関わる機会がありません。現在、ニーズがありませんが、今後、ニーズが出てきた時には検討していきます。 |
| | 27 (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している | 80% | 20% | 児童対応がない場合は、参加しています。 | |
| | 28 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っている | 100% | 0% | 送迎や連絡帳、必要に応じて電話を行ない保護者の方と情報共有を行なっています。 | |
| | 29 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている | 20% | 80% | 相談があった際は、関わり方、支援方法等の助言を行なっています。 | 今後、保護者のニーズに合わせて、ペアレント・トレーニングなどのプログラムを検討・実施していきます。 |
| 保護者への説明責任等 | 30 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている | 80% | 20% | ご利用開始時に説明をしています。半年に一度のモニタリングにて、支援計画の説明をしています。 | |
| | 31 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている | 100% | 0% | 保護者からの相談等あれば、職員間で検討をして助言や支援を行っています。 | |
| | 32 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している | 20% | 80% | | 新型コロナウイルスの影響により、開催ができていません。必要であればオンラインでの開催なども検討していきます。 |
| | 33 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している | 80% | 20% | 法人でサービス向上委員会を設置し、苦情解決を行なっています。苦情解決制度の案内を年に1回周知しています。 | |
| | 34 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している | 60% | 40% | ポポロ通信の発行や、ホームページのブログでタクト内での活動を発信しています。 | SNSでの発信も検討していきます。 |
| | 35 個人情報に十分注意している | 100% | 0% | 個人情報の取り扱いには十分注意し、書類などは鍵のかかるキャビネットにて保管をしています。外部にて個人情報を使用する際は保護者に了承を得るようにしています。 | |
| | 36 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている | 100% | 0% | 絵カードやジェスチャー等を使用して、言葉だけでなく児童の特性に応じた対応をしています。イベントがある際は事前に、絵や図を活用して混乱がおきないよう支援しています。 | |
| 37 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている | 20% | 80% | | ポポロ祭りを毎年開催していましたが、前年度から新型コロナウイルスの影響により実施できていません。 | |
| 非常時等の対応 | 38 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している | 60% | 40% | | マニュアルは策定していますが、保護者の方への周知はできていません。 |
| | 39 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている | 40% | 60% | 避難方法や避難経路についてはシミュレーションは行っています。 | 定期的な避難訓練の実施を行います。 |
| | 40 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている | 20% | 80% | | 職員間で虐待防止について話をしていますが、今後は研修に参加する機会を設けていきます。 |
| | 41 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している | 40% | 60% | 職員間で身体拘束について話し合い、対応を徹底しています。またその旨を個別支援計画に記載して、保護者の方にも説明を行い、了承を得ています。 | |
| | 42 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている | 60% | 40% | 保護者から預かった指示書をもとに対応しています。 | |
| | 43 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している | 100% | 0% | ヒヤリハットやアクシデントがあれば、その都度ケースに記載しています。また、安全管理委員を設置し、法人全体で共有と対策を決定しています。 | |